

令和6年度流山市地域公共交通活性化協議会第4回分科会

【日時】 令和6年1月16日（木）午後2：00～

【場所】 流山市 生涯学習センター 1階多目的ホール

【資料】 資料0：スライド資料

（令和6年度流山市公共交通活性化協議会第4回分科会）

【議事】

藤井会長（日本大学）

会議成立について事務局より定数確認をお願いする。

事務局

現時点で出席が15名、欠席が8名である。なお、荒井委員からは遅れる旨の連絡をいただいているので、出席人数に含んでいる。また、欠席委員のうち7名の方からは委任状を提出していただいている。委員の半数以上の出席があるので、会議が成立していることを報告する。

藤井会長（日本大学）

それではまず会議の公開非公開についてご確認をさせていただければと思う。基本的に協議会と分科会は、ともに公開を原則としている。本日も傍聴希望の方がいらっしゃるので、皆さん方公開という形でよろしいか。

事務局

異論なし。

<議題第1 八木南団地の公共交通導入検討について（協議）>

事務局

（資料0を基に説明）

藤井会長（日本大学）

ご質問・ご意見があれば伺いたい。

前田委員（流山地区タクシー運営委員会）

料金に関しては、まだはっきりしていないということだが、柏市の例で言うと、往復で1人500円という形になっている。帰りに乗る・乗らないを別にして、往復でいただいている。片道乗った人なのか往復の人なのか、なおかつ割引があるとなると、計算が非常に面倒くさいことになるので、運転手さんがとても嫌がると思う。経理の方も、これは往復乗った人なのか片道乗った人なのかについて、いちいち計算しなくては行けないと、これは非常に煩雑になってくるので、なるべくわかりやすくしていただきたい。

例えば柏市ではもう往復料金としてもらおうと、帰りに乗る・乗らないのは自由というような形でやっている。基本的に行き乗車した人は帰り、同じ車に乗るという形でやっているの、やるのであったらそういう形にしていきたい。

だから、柏では例えば帰りに乗りたいという人がいても、行き乗ってない人は乗れないという形で運行している。そのような感じの要望だが、やるのであれば、もうそういうふうにさせていただいた方が、運転手さんもわかりやすいということである。

事務局

今後の検討の参考にさせていただく。

藤井会長（日本大学）

柏はとねっこタクシー、それから、やよいタクシーという行き先がスーパーや大規模小売店舗の商店直結型として行っているものである。今回は流山セントラルパーク駅の利用であり、買い物が目的の人でも使っていいよと、利用に自由度があるので、そういったところの中でご理解をいただくような料金設定を考えていかななくては行けない。今ご提案があったが、実際に運転手さんの方が混乱するような仕組みはいいことがないので、事務局はぜひその辺も含めてご検討いただければと思う。

志賀委員（流山市観光協会）

事務局でもタクシーの業界の方でも構わないが、八木南団地の自治会から流山セントラルパーク駅まで行く場合の通常のタクシー料金というのはいくらぐらいになるのか。

荒井委員（流山地区タクシー運営委員会）

1, 400円くらいである。

事務局

タクシー事業者の仰っている通り片道1, 100円に迎車料金を追加して1, 400円ほどである。

荒井委員（流山地区タクシー運営委員会）

流山セントラルパーク駅のタクシー乗り場側に乗降場所を設置されているようだが、今までの話の中では私は東葛病院側に設置するのかと思っていた。

流山セントラルパーク駅では東葛病院の方からのお客さんが、迎車料金がかかるのを嫌がって、駅から乗りたいということで、徒歩で乗り場に来られる方がそれなりにいる。そのときにタクシー乗り場にタクシーが停まっていると、少し混乱を招くように思える。駅の反対側のロータリーではだめなのか。

事務局

タクシー事業者と何度か協議させていただいた中で更新をさせていただいた。スライド資料 11 ページの①番の写真をご覧いただくと、路面に「タクシー乗車」という枠が書いてある。同じ場所というのは確かに利用者としてもタクシー事業者さんとしても混乱を招くので、ここは少し配慮が足りない部分であった。これまでの協議の中でも一般車とは別の場所ということで協議を進めていたので、そこについては、修正していきたい。

また乗降場所についても、東口という形で何度かご協議させていただいていた。これを今回西口に移した意図としては、11 ページにも出ているが、買い物にも利用できるスーパーの位置関係がある。西口からでも 150 メートルという距離だが、東口からだとならに 100 メートルぐらい伸び、想像以上に距離が遠かった。買い物等の荷物を持った利用者の方がこの 250 メートルほどを移動できるか、そういった点を考慮し今は西口に修正させていただいている。ただこの場所についてはまた今後も協議が必要だと思う。経由地の設定についても、本日ご提案させていただいたが、協議を進めてから決定したいと考えている。

藤井会長（日本大学）

これからまたタクシー事業者さんと協議をしたいということだが、よろしいか。いずれにしてもわかりやすさ、間違いが起きないようにといった配慮は必要なので、お願いしたい。

長橋委員（流山商工会議所）

先ほど柏市の事例では行きと帰りが同じタクシーという形でやられているという話だったが、東葛病院等の病院を利用する場合、病院はかかる科だとか、混雑具合によって時間が大幅に変わる可能性がある。その場合、同じタクシーで行って同じタクシーで帰ってくるのが難しいのではないかと感じられる。意見である。

事務局

仰るご意見は様々な方からいただいている。14 ページに書かせていただいた例で運行した場合、同じタクシーを利用する場合は午前 9 時 20 分から 10 時という 40 分ほどしか間に時間がない。病院は難しいということは当然想定される。実証実験の中では、例えば、片道利用ということもあり得ると思うし、またその際、運賃設定を先ほどご意見あった往復

とするのがいいのか、片道にするのがいいのか、その辺はまた十分協議をしてから決定していきたいと思う。

小西委員（流山市身体障害者福祉会）

資料を拝見して感じたことだが、まず代替タクシーとして乗り合いタクシーを今予定されているわけだが、これに介護タクシーの車両を使ってみようという検討はされたのかというのの一つ。

あと停車場所。私は歩くのが大変なので、目的地でマミーマート等が多いのであれば、なるべく近くに停車場所があった方がいいと思う。マミーマートの近くだけでなく東葛病院も、ずっと通院している人たちは多分東葛病院の車で行くのだろうが、初診者とか、たまにしか行かないという方のために東葛病院の、例えば車寄せのすぐそばまで行くようなルートを入れられないのか。

私は野々下に住んでいるが、12ページのところの八木南団地の中の停車場所の案だが、ご説明の通り確かに坂がたくさんあり、この①というのはちょうど坂の真ん中になる。ということは、右端の方は下からここまで上がってくるのも結構大変だと思うので、ループというか、もう少し下まで降りて二つ目の停車場所を検討していただくことをお願いできればと思う。

事務局

まず1点目の介護タクシーについての検討はしていない。今回公共交通という意味合いで、我々は乗り合いタクシーという形で今検討を進めているところである。

2番目の停車場所の位置。これが目的地になるべく近い方がいい。おっしゃる通りのことで、マミーマート、スーパーはそのような形で、経由地を設ける案を挙げたが、これは実際の目的地と定めた流山セントラルパーク駅までの経路の途中にあたるので、このような形をとった。東葛病院は駅で言うと東口、逆側である。またこの正面玄関に寄ろうとすると一旦東口のロータリーに入らなくてははいけないということになる。その点については我々の方は今回経由地というふうに設定をせずに歩ける距離100メートルという設定はさせていただいたが、この点についても、今後の経路については事業者様等と協議を十分にしていきたいと思っている。

3番目の八木南団地の坂が多い部分、この12ページの地図、バス停は団地坂下という名前だが実際はまだ坂の途中である。地図の右に行けば行くほどさらに坂の下になる。まずはここに停車場所を設けるか設けないか考える段階からになるが、ここはタクシー事業者様それから利用者になる地域組織の方とまた十分協議した上で決定していきたいと考えている。

前田委員（流山地区タクシー運営委員会）

小西委員・長橋委員が仰っているように、病院に行かれる方は帰りに乗れない。大体買い物の方と病院の方が混在するのはあまり良くないのではないかと。例えば現在だとインフルエンザとかが流行っている。そういう車に買い物だけに行きたい人が一緒に乗るかとなると、狭い中でうつってしまうのではないかと。やっぱり買い物の方は買い物の人で、まず行くと。例えば柏の場合は1時間後に迎えに来て一緒に乗って帰る。病院はちょっと難しいと思う。病院に同じ時間に行っても終わる時間はまちまちで、始まる時間もまちまちだと思う。病院を目的地にするのは趣旨に合うのかどうかと思う。帰りはもう個人で、それぞれ帰ってもらうというのであれば、まだいけるかなと思うが、始まる時間もまちまちで同じ時間に始まらないと思う。それを考えると病院というのはどうかと感じている。混在で乗るのもどうかと、健康の方にしてみれば、インフルエンザとか病気のある方と一緒に乗るのはちょっと考えてしまうのではないかと。その辺を検討した方がいいのではないかと。

藤井会長（日本大学）

基本的に乗り合いといったものを地域の中で動かす場合には鉄道駅利用で、どこその鉄道を使っていかれる方もいるから、健全な方であれば問題ない。お店限定という形の運用でなくても構わない。ただし今ご指摘されたように熱があるとか、そういった場合は、基本的に乗り合いは避けるというのが現状の運用の仕方なので、そこは地域の方に徹底していただくような、事前協議といったところを深めていくしかないのかなと思う。そのため、今のご指摘のように、今回東葛病院の方に乗り場を設けていないと、ただそこはちゃんと活用できる下地を今、事務局が検討しているので、例えば薬だけもらいに行く人などは全然問題ない。毎月薬をもらうとか、そういった方たちも朝一番での運用が使えるのであれば、片道でも使いたいという人は使っていただく、それができるような仕組みに流山は、今回はしたいということである。

あとはこれが実証実験で一つの方向性が出て、時間帯運用が少し増えてくると、地域サービスとして、次、本当にこの病院を使う方たちも出てくるのかどうか、あるいは鉄道を使う中で二次交通としてのアプローチを位置づけて、利用している人もいるのかとか、いろんな使い方を今後調べていって、今回動かすものが地域に根付いたどんな交通になっているかということについて、アンケートをしながら更に良いものに変えていきたいという流れを持っていると思う。ただ今のご懸念事項は非常に大事なことであり、タクシーの運転手さんだけではなくて乗車する皆さんに共通で影響する内容なので、その辺はこれから協議する地域団体の方ともぜひ丁寧に取り組んでいただければと思う。

中嶋委員（松戸新京成バス）

ちょっと気になったところとしては運行事業者さんに補償される経費のとらえ方。どういった形で計上されるのか。例えば運行事業者さんの見積もりによる実態に即した経費として計上されるのか、あるいは何らかの形の計算式を用いて経費を計上されるのかという

のを差し支えなければ教えていただければと思う。

それから経費の部分で7ページに車両については通常の車両を兼用されるということで記載がある。この場合この車両費についての計上の仕方、計上されないのかされるのか、あるいは何らかの割合で計上されるのかというところをもし差し支えなければ教えていただければと思う。

事務局

1点目2点目合わせてのご回答になるが、どちらについてもまだ決定はしてない。協議継続中である。補填の考えとしては、基本的な流れは運行経費、それに運賃収入というのが入ってくるのでその差額、わかりやすく言うと赤字分を補填するのが市の役割という考えは変わらない。ただ、運行経費をいくりに設定するかについてはいろいろ考え方があると思う。先ほどの片道1,400円ほどという通常運賃をもとにした考え方もあるし、あと貸し切り料金などいろいろ運賃経費の設定の仕方というのはあると思う。これについてはタクシー事業者と個別に協議をさせていただいた中で決定していくというふうに考えている。

通常業務と明記したのも、通常業務とは会計、また違う人員配置、車両等を用意することになるかもしれないが、ここについてもまだ未確定な部分があるので申し訳ないがこの場ではお答えはできない。

中嶋委員（松戸新京成バス）

意見として、少なくとも事業者サイドが赤字にならないようにご配慮をお願いしたい。

藤井会長（日本大学）

こちらは地元協議、それから運賃であるとか、停車する場所、それから運用の仕方を含め、実証実験としてこれから進めていかないといけない。そういった中、今後の予定として次年度の8月までにある一定程度の方向性で具体的な運輸局の申請等に取り組めるように動かしていきたいということなので、また何かお気づきの点があったら事務局の方に随時ご連絡いただくようお願いしたい。

それでは続いて議題2の方に移りたいと思う。

<議題第2 流山市地域公共交通計画の見直しについて（協議）>

藤井会長（日本大学）

事務局よりご説明をお願いします。

事務局

（資料0を基に説明）

藤井会長（日本大学）

こちらについては分科会あるいは本協議会の中でも次なる計画に向けてどうするかといったことを各委員の皆様から色々のご意見をいただいていた。その中で、交通の役割分担といったものをどう位置づけていくのか。あるいは市としての補助制度とかそういったものもどういう形で位置づけるかと、この市のぐりーんバスを含めた位置づけ、これがかなりいろんなところで問題視されているようなご意見も出てきている。その一方、それが活用できている地域もあるといったところで、そこをドラスティックにどうやって変えていくのか、あるいはソフトランディングするような形で方向を一定程度にシフトしていくのか、いろんな考えがきつとあるかと思う。

最近ではいろいろな人の取り組み、交通のラストワンマイルであるとか、そういった取り組みの中でいろんな案が出てきていると。さらに2024年問題で交通事業者さんの方では運転手確保が非常に難しい側面もあると。そういった中でコミュニティバスの維持継続の話と本来の民間の路線バス事業の安定化であるとか、そういったところも含めて交通事業者さんの今抱えている大問題であるとか、改善事項、こういったことも再検討しながら、今ある5年間の計画自体をこの令和9年度から新たな5年の計画に移行していこうじゃないかというのが今の段階である。

そういった面ではいろんな課題の認識は、事務局でも出ているのだが、そういった中でより具体的にここを変えるべきだ、あるいは少しこの辺については問題視しなくても良いのではないかと、いろんな話が出てくると思うので、各委員の皆様方にお手を煩わせて大変恐縮であるが、ご意見をいただくことを事務局として1つのステップにしたいということである。そういったアプローチをして、まず問題を直視して、その改善策を考えて、全体像を作り変えていくという形をとるということである。その趣旨をご理解いただいてご協力いただけないかということである。事務局並びに私の追加の説明も含めて、何かご質問、ご意見等があったらいただければと思うがいかがか。

前田委員（流山地区タクシー運営委員会）

うちの会社としての支援のお願いだが、運転免許証の自主返納のこの制度はすごくいいと思う。ただ運転手免許の自主返納というのは、みんな有効期限がまちまちである。そうすると運転手さんが見落としてしまうことがあり得て、実際期限が切れたものをもらってきってしまうことが何回かあった。あとバスの割引と見た目が非常に似ている。これも間違えてもらってきってしまったことがあって、それを市の方にお尋ねしたところ、それは払えないということで、それは当然だと思う。

お願いとしては、チケットの中に、今度色を変えるということは伺っているが、できれば車両番号を入れる枠とかを1つ作ってもらおうとか、そうすればどの車が間違ってもらってきたのか、どの乗務員さんが間違ってもらってきたのかというのがわかる。今までだともう

わからないので、もう会社の負担で出すしかないということが起きているので、その辺ちょっとわかるような仕組みを作ってもらおうと、枠作ってそこに車両番号を入れてもらっただけで、その乗務員さんの責任というか、あなたこれ間違っってと、乗務員さんしっかりやってくださいというようなことができるので、その辺の検討をお願いしたいと思う。

藤井会長（日本大学）

そういう点でも全然構わない。運用上で困っているということはさらにいくつもあると思うので、具体的に調査をした中で書き込んでいただくところ、もしくはこういう形にすると混乱なくできるよといった提案も含めて、そういうのをどんどん入れ込んでいただけるといろんな事業者さん、タクシーもあればバスもある、あるいは利用する立場として、こういう形にしてもらった方が、タクシー、バス使うときに共通券としてやりやすいよとか、いろんなことが出るかもしれないので、ぜひそういった意見を取らせるような形で実施させていただけるとありがたいなと思っている。手がかかるから嫌だとか言われてしまうと大変困ってしまうがご協力いただけないかなといったところである。

小西委員（流山市身体障害者福祉会）

事務局さんのおっしゃることはよくわかる。アンケートについてできることはさせていただきたいと思う。ただ今商業施設などが結構新規の出店や撤退があり、流れが非常に速いので、私はアンケートに関してはもっと頻繁に取ってもいいのではないかなと思う。これからは例えば一度取ったアンケートを何年か経てばもう一度見直すとか。住民の方は大変かもしれないが、同じようなアンケートをまた取って行き先が変わっていることも往々にしてあると思われるので、頻繁に取られたらどうかなかと。

あと千葉県の中でもいろんなところで今香取市だとか松戸だとか船橋だとか、いろいろ新しい方式で実証実験をされているところがあるというふうに聞いていて、その辺の結果がもし上がっているのであれば、こういう会議で、例えばどこそこのオンデマンドだとか、グリスロとかいうのがあるというふうに聞いているので、その辺の情報も入手されているようであれば教えていただければ助かると思う。

藤井会長（日本大学）

今の意見では住民アンケートのような調査をもっと併用したらといったところがまず一つあるのかなと思うが、まず今回、委員の皆様をお願いするのは、地域公共交通計画のこの緑の冊子をどう変えていくかと言ったところに関するご意見をいただく、といったところがまず第1である。次なるプロセスとして、利用者アンケートであるとか、そういったものが必要であればこれは適宜考えていくと。さらに地域公共交通計画の中には、具体的な事業の内容といったものを5年間でどういう形で計画に位置付けていくか、運用していくかというのがある。その中には当然今の話のグリスロであるとか、あるいは恐らく流山は必要な

いているが公共ライドシェアだとか、そういった言葉もいろいろ独り歩きする形で動いてきている。今時代の中で変わってきた新たなモビリティの仕組みであるとか、そういったもので流山に導入すべきものがあるかどうか、こういったことを事務局が確認して、それを今度は改定する計画の中にどんどん入れ込んでいって、皆様方にもご検討いただいて、これは組み込むべきだね、これは必要ないよねといったようなことを、またこの分科会で、さらに協議会で決める、そういう形になっていく。今回のアンケートに関しては、委員の皆さん限定で冊子の改定に向けた意見聴取をさせていただきたいというところなのでそこはご理解いただけるとありがたいと思う。

鈴木委員（流山地区タクシー運営委員会）

このアンケートはここに書いてあることだけではなく、他に何かあったら言ってもいいのか。5年間参加していろいろな思いがあるので、ここに書いてないことでも構わないことでよろしいか。

藤井会長（日本大学）

先ほど事務局がご説明していたが、基本はこの枠組みで質問させていただくけども、自由にご回答いただくと、ご意見があればどんどん挙げていただくと、事務局はそういう考えでよろしいか。

事務局

はい。

鈴木委員（流山地区タクシー運営委員会）

あとこれは文章だけでアンケートの返事を書くのか。

藤井会長（日本大学）

アンケートの実施の方法。質問項目できてそれこそイエスノーで答えていくのか、あるいは記述式で考えるのか、どんなことを今想定されているか。

鈴木委員（流山地区タクシー運営委員会）

記述で書くと言いたいことが伝わらないなと思うことも多々あって、だったら自分の声で言いたいなと思うこともある。ただ声で言ってしまうと多分集計が大変だろうなどといういろいろ考えてしまう。今どういうふうに考えているのか。

事務局

まだ明確にお伝えできるような形にはなっていないが、まずは書面で書いていただけるも

のは書いていただければというのが基本になる。ただ先ほど小西委員からもお話があった、この地域公共交通計画全体を見直すという中では、委員の皆様だけではなくて、流山市民を対象とした市民アンケート調査というのも今後実施していく予定もある。そういったことも含めて、皆様、各委員へのアンケートの方法としては、それこそ個別の委員の方々へのヒアリングというのも、我々の中では検討の材料の1つとしては上がっている。期間がまだ取れると思うので、その辺も含めて検討していきたいと思う。

藤井会長（日本大学）

アンケート+ヒアリングを実施させていただくことにもなるかもしれないということなので、よろしいか。

高橋委員（公募市民）

アンケートに対しての質問だが、今回のものはわからないが、今までだと自宅に資料が届いて、一、二週間で答える形になっている。こちらの計画を日頃、少しずつ目を通してはいるが、この膨大な資料の中のもの、今まで4年間、私が委員になる前からのご意見も掲載されているもので、5ページある。これを一、二週間で全てに答えるというのは、私の方の時間がなく、自分の中でも深く考えられず、結局一つ一つを浅く答えてしまうのではないかという不安がある。

藤井会長（日本大学）

こちらに関しては思いがあったものについて回答するかそういう形でもよろしいか。

事務局

アンケートの形というのも今いろんなご意見があるので、我々も十分検討はしていきたいと思う。また個別というお話をさせていただいたが、例えば先日、新規の委員の方を対象に勉強会のような形をとった。この数名での単位、例えば市民委員の方対象、交通事業者の方対象と、そういったある程度の規模でももしかしたらできるかもしれないので、様々な方法で、また期間についても、20ページでは2月にアンケートを実施して3月に集計と書かれており、確かにこれだと1ヶ月程度しかないように見えるので、ここについてももっと十分な時間が取れるように我々も工夫したいと思う。

藤井会長（日本大学）

回答できるところに限定してご回答いただければ、これだけの人数がいるのでどこかにヒットする形で改善点のところをまとめていけばいいので、極端なご負担感を持った形でアンケートに回答する必要性はないと思っている。

どのような形でやるかといったところについても事務局で調査方法、あるいはペーパー

ベース、もしくはWEB でやった方が回答しやすいのか、もしくはヒアリングという形で当事者もしくはグループでとかいろんなやり方を事務局が提案するかと思うので、その中で回答のしやすい方法をご選択していただきながら、この改定に向けたそれぞれの委員の思い、気になる点があれば。それこそ変えてほしいということでも構わない。ここが使いにくいとか、ここはわかりにくいという問題点の投げかけでも構わないと思うので、そういった視点の中でご協力いただければと思うので、願います。

それでは議題2は以上である。

<その他（連絡・報告事項）>

藤井会長（日本大学）

その他委員の皆様方から何かあるか。

志賀委員（流山市観光協会）

その他ということで議題とは関係ないが、今流山市内で二次交通として電動キックボードを私が役員をやっている会社の方で運営しているが、その中で先般、南流山選出の議員さんからいろいろなお叱りのお話をいただいた。この中で事業者の方とか市民の方で、こういうことが問題だよというようなご意見がもしあれば、教えていただけたら今後の利用について反映できればと思うのでお願いしたい。

藤井会長（日本大学）

事務局の方に何か連絡などは入っているか。

事務局

事務局の方としてお答えできることはない。

藤井会長（日本大学）

キックボードに関しては、結構都内の方などでは運用されてきていてそれが地域へのにじみ出しという形でどんどん広がっている実情がある。その中で今いろんなパーソナルモビリティが地域の中に動いているので、交通安全という側面では非常に懸念するような事態に繋がるということで、いろんな運用の仕方について今は勉強している段階といったところなのかなという気がする。今ご指摘があった地域の中に根付く交通として成り立つのか、あるいはそうするためには、どういう問題をクリアしなくてはいけないのかといったところを地域でお考えになっているようなので、何か情報があれば、こういうアプローチをするとちょっと危ないとか、もっとこうしてもらった方がより地域の活動に使えるのではないとか、提案事項でも結構である。情報共有という形であれば、ぜひ事務局を介して

でも結構なので、ご意見をいただければと思うので、お願いしたい。

他はよろしいか。

それでは事務局の方に進行を戻したいと思う。

事務局

次回の協議会については、2月6日の木曜日13時30分から流山市ケアセンター、4階の研修室で開催させていただくのでご出席をお願いする。

以 上